

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 ・通信教育部カレンダー→p. 7～9
- ・演習・実習科目関連締切等
- 社福→p. 23～25 精保→p. 26～27

2023年5月以降の変更・留意点

- レポート提出台紙の「評価・指導票」の記載事項の変更
年齢、職業の欄がございますが、今後は一切記入不要です。
- 「精神医学と精神医療Ⅰ」スクーリング（仙台会場）の日程決定
8/26(土)10:30～17:40・27(日)9:10～16:20
(詳細および申込については、次号『With』162号に掲載します)
- (再掲) 2023年度からの変更・留意点
『試験・スクーリング情報ブック2023』p. 18～21に掲載しております。
必ずご確認ください。

【再掲】昨今の日本郵便の配達日数について

日本郵便（郵便局）の普通扱いの郵便物の配達について、時間を要している状況が確認されています（3～7日）。各種提出物につきまして、締切日まで余裕をもってのご提出にご協力ください。

新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応について

5/8より新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことを受け、通信教育部での各種対応は下記のとおりといたします（感染状況によって変更となる可能性があります）。

◆スクーリング受講について

『試験・スクーリング情報ブック2023』p. 48の【新型コロナウイルス感染防止における受講上の留意事項】（2023年2月時点）は撤廃いたしますが、下記につきましては引き続きご協力をお願いいたします。

1. 発熱など体調不良がある場合は、受講をお控え願います。
2. 入室はスクーリング開始20分前を目安にお願いします。
3. マスク着用は各自のご判断にてお願いします。授業の内容によってはマスク着用にご協力いただく場合があります。
4. せっけんでの手洗いや手指消毒、3密の回避等、各自での感染対策は引き続きお願いいたします。

◆提出物について、引き続きのお願い

レポート、各種申込書は、郵送での提出をお願いいたします。

◆学食について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 月曜日を除きランチ、ティータイムの営業をしています。
※学生証の提示で、日替わりランチ200円引きなど割引があります。
- 2) スクーリング開講日に、日替わり弁当の予約を受け付けています。
※550円（税込）、味噌汁付き。前日15時までにWeb予約（p. 52参照）。
※スクーリング欠席時は予約キャンセルをお願いいたします。

◆対面での学習相談について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 「学習相談申込書」を希望日の1週間前までにご提出ください（日時を調整のうえご連絡いたします）。
 - ・**メールで提出**：通信教育部ホームページよりダウンロードし、入力のうえ添付ファイルにて送信（宛先 uc@tfu.ac.jp）。
 - ・**郵送で提出**：本冊子巻末の用紙に記入のうえ、返信用封筒（定形封筒 84円切手貼付・返送先明記）を同封して発送（封筒に「学習相談申込書 在中」と朱書きしてください）。
- 2) ご予約いただけるのは平日（水曜日を除く）で、下記①～⑤の時間帯に1日1回、30分以内となります。
 - ①10：00～10：30、②11：00～11：30、③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30
- 3) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 4) 発熱ほか体調不良の方は、キャンセルのうえ改めてお申し込みください。
- 5) 学習相談は講義に準ずるため、録画・録音はご遠慮いただきます。

◆自習室について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 使用可能日：年末年始など事務室休業日を除く。
- 2) 使用時間：9～17時
- 3) 使用希望の方は、通信教育部事務室（仙台駅東口キャンパス3階）にお越しください。
- 4) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 5) 発熱ほか体調不良の方は、入構をご遠慮ください。
- 6) 室内での食事はご遠慮ください。
- 7) 室内の書籍等は閲覧可能ですが、貸し出しはしておりません。

作者の言いたいことは 何ですか？

通信教育部副部長・准教授 佐藤 俊人

ご入学おめでとうございます。これから多くのレポート作成やスクリーニング参加を通して、学生同士はもちろん、教職員とも交流をもち、有意義に情報交換をしていただければと思います。特に、科目の担当教員とのコミュニケーションはレポートを通して、ということが多いと思いますが、最初から完全なものをめざすと辛くなりますので、再提出を怖がらず、何回かのレポートのやりとりで次第に完成形に近づけていいんだ、と考えてください。教員の助言がなくとも最初から完全なレポートを書けるのであれば、すでに大学で学ぶ必要はないのかもしれませんが。

さて、中学～高校生の頃、私は現代国語のテストがあまり好きではありませんでした。特に「筆者の言いたいことは何ですか」タイプの問題には、「たぶん、こういう答えをすることを求められているんだろう」という優等生的な回答をしていた記憶があります。しかし、どこかで「本当かな……」とか、「主題が何かを問題にされるくらいわかりにくい文章って……」という気持ちも持っていました。国語のテストが苦手な人あるある、かもしれません。

文章にはさまざまな役割や使い道があり、文学作品やエッセイ、脚本には、いろいろな解釈ができる文章を使って読者の想像力を駆り立てることもあります。また、あえて結末が書かれていないような、読者にとってはモヤモヤしたまま終わってしまう小説もあり、それはそれで魅力的な部分でもあります。私は心理学系の科目を担当していますが、心理学の基本のひとつに「人間は、同じ情報をもらっても、それをどう判断するかは一人ひとり違う」ということがありますので、その人なりの解釈ができるとい

うことも「アリ」ですね。

例えば、「3日目の日暮れまでにここに帰ってこなかったら、お前の身代わりになっている友人を処刑する」という条件で一時釈放された「彼」が、葛藤に悩みながらも日暮れギリギリに間に合って処刑を回避できた、という「あの有名な小説」を中学生時代の教科書で読んだ人も多いと思います。あの小説が「裏切らないこと、信じることが重要だ」ということを伝えていると考える人がいてもいいし、「小説の冒頭でまず激怒した単純な彼のように、怒りにまかせて計画性なく行動するとトラブルになる」教訓のように感じる人がいても、「作者の、お金が足りなくなって友達を身代わりにした経験を書いただけじゃね？」と感じてもいいわけです。読者の性格やこれまでの経験などにより、捉え方が違ってくるのは当然のことで、どんな解釈をしたとしても、それは「その読者にとっての正解」だと思います。作者が本当に伝えなかったことは作者にお尋ねください、ですね。

しかし、学問の世界のレポートや論文はそれでは困ります。できるだけ誤解を与えないように、わかりやすく相手に情報を伝えることが重要です。レポートや論文を書いた人のことを「筆者」と表現しますが、そう主張しているのは誰か、根拠は何か、それを踏まえて、結論として筆者が何を主張したいかなど、読む人の判断にゆだねることはできません。つまり、筆者の伝えたいことを、正確で客観的な情報とともに読者に正しく伝える文章を書くことが重要になります。例えば、レポートにおいて「近年、子どもの数が少なくなった」と書くのであれば、その根拠となるデータを「文献」として記述することも必要です。そうでなければ「筆者の近所で、最近あまり子どもを見かけなくなった」のか「全国的な問題として少子化が進んでいる」のか、読者には伝わりません。後者であれば、すでに公開されているデータなどを参照しながら根拠も示す必要があります。

また「少子化を止めるには若者への経済的支援が一番有効と考える」という記述をするならば、「だれか他の研究者がある根拠でそう主張している」のか、「筆者がどのような根拠でそう考える」のかを明確にした文章を書く必要があります。ですから、レポートや論文では「引用、参考文献」が重要になってくるわけです。その他にも、学問分野ごとにレポートや論文作成のための様々な作法があります。多くのレポート作成を通して、情報を正確に伝え、客観的で冷静な視点から考察する力を少しずつ身につけてください。

レポートや論文では、学問領域の専門用語なども多用することになるとと思いますが、専門用語は、同じ領域で学ぶ人たちが効率よく学問上のコミュニケーションをとるための、そこでしか通用しない「方言」でもあります。そのため、文献を引用しながらレポートを書いていると「簡単なことを専門用語を使って難しく説明する」ような文章になることもあります。レポートや論文はそれで大丈夫です。しかし、そのレポートを完成させたということ自体は、実践ではあまり役に立ちません。大学で学んだことを、専門用語という方言を使わずに広くウェルビーイングに実践できるよう、一つひとつの方言を自分なりに標準語に言い換えながら「難しいことを簡単に説明できる」ようにしてください。そのプロセスはきっと大きな実践力につながるはずです。

あ、全くの余談ですが、2014年一般財団法人 理数教育研究所が開催した「算数・数学の自由研究」作品コンクールで最優秀賞を受賞した村田一真（2014）は、「小説の彼」の移動距離、所要時間、途中での出来事等を多角的に分析しながら移動時の平均時速を算出し、「彼は全然走っていない」と考察しています。得られた情報を冷静に分析すると面白い考察もでてくるものですね。

そして最後に心配になってきました。

私が皆さんに伝えたいことがきちんと伝わりましたでしょうか、この文章で……。

モヤモヤした方は、是非筆者にお尋ねください！

参考URL

<https://www.rimse.or.jp/research/past/winner1st.html>